

て炭坑側の切崩に對抗し其の統制に全力を注ぐと共に、漸次増加する團員收容の必要上、更に飯塚市芳雄驛前に貸家を借入れ第二争議團事務所を設けたのである。而して十六日には總同盟九聯より主事久保時造來援し、本争議を總同盟九聯の直接統制下に指導することとし、且つ争議費用醸出方法に付き打合をなし、差し當り製綱（小笠原）支部、セメント門司支部より各自白米二十俵宛支出せしむることゝなつた。尙且下來縣中の總同盟大阪聯合會争議部長八谷幸太郎氏等をして争議指導の任に當らしむるに至つたのである。かくて十七日夜には参加者一六四名を算し漸次氣勢を掲ぐるに至つた。

b 會社側 會社側では十五日朝飯塚警察署よりの注意に依り初めて前記の事情を知り直に對策協議を行ひたる結

果、強硬なる態度にて要求拒絶の方針を決定し、且つ十六日午前中各坑勞務主任會を開催し善後策を講究し、勞務係の總動員をなして警戒し稼働者の動搖防止に努むると共に、日本石炭坑夫組合幹部と平素密接なる關係を有する顧問辯護士岩成自助氏をして、其の懐柔切崩を策したのである。

2 八月十八日より二十日まで

a 勞資の接衝 會社側にては争議團の要求書に對し協議の結果、十八日午後四時、争議團長村上事張俊彦に對し書面を以て、八月十九日午前九時本社俱樂部に於て争議團長並に内地人鮮語通譯一名を限りて會見すべしと回答したのである。之に對して争議團側では同夜幹部會にて協議の結果、交渉委員として、張俊彦、張再達、金秀賢、八谷幸太郎、宮崎太郎、山木戸初太郎、